

## 巨樹・巨木シリーズ34 6月号 愛知県-1

細田木材工業株式会社  
顧問 細田安治

今月から愛知県に筆を進める。愛知県は名古屋を県庁所在地とし東京の関東圏、大阪の関西圏に対して、中京圏として日本列島の中心地に位置する。

産業面では日本一の大企業トヨタを擁し、トヨタをピラミッドの頂点として展開する産業のすそ野は広く、我が国のトップを行く地域である。経済力指標であるGDPの順位では1位の東京都の120兆円は飛びぬけているが、2位大阪府43兆1千億円、3位愛知県43兆8百億円とほぼ変わらずの躍進ぶりだ。

中核都市である豊田市はSDGS脱炭素未来都市を目指す先進地域である。古くは戦国時代、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康などの天下人が覇を競い合う激戦地であり歴史的にも意義の多い県でもある。

さてこのような戦国時代から現代に至る激動の時代を包摂した愛知県ではどのような名樹に巡り合えるのか、資料提供してくれた巨樹・巨木探訪者U氏の足跡を辿っていく。

本題に入ろう。愛知県はスギが多い県だ。今号ではスギを6本並べる「スギ オンパレード」として書き進めたい。益々楽しくなってきた。

### 写真番号1 樹番号3 須佐之男神社のアヤスギ

樹齢推定400年、樹周8.5m、樹高45m 愛知県北設楽郡東栄町三輪字沢上 愛知県指定天然記念物

\*東栄町観光まちづくり協会サイトより。

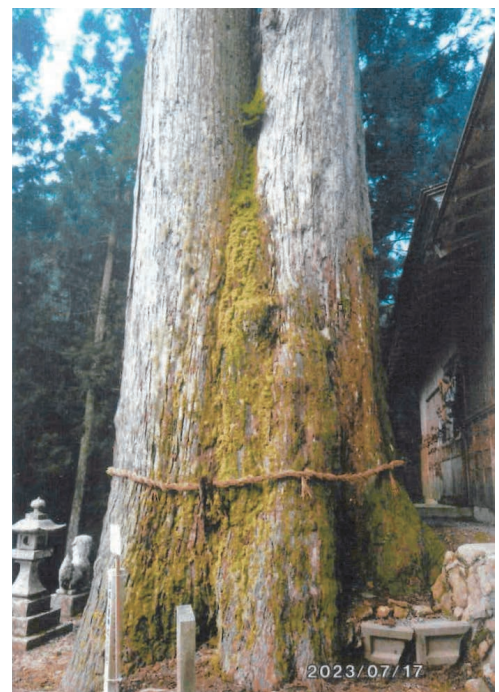
須佐之男神社には明暦3(1657)年の神社創建の棟札とうふだがあることから、これより古いスギであると考えられている。

アヤスギの名は、2本の幹が根元で斜めに交わっていることからついた名前といわれている。

#### <筆者のつぶやき>

須佐之男命すさきののみことにゆかりありか？須佐之男命は神話に出てくる神様であり、特にヤマタノオロチを退治した神話は代表的なものだ。愛知県の岡崎市には須佐之男命にゆかりある神社が複数あり、本項の須佐之男神社との大きな関わりは残念ながら見いだせなかった。

巨樹探索者U氏撮影の写真をよくよく観察すると、次のような楽しいことを想像した。U氏の記録から時刻を確認すると、この巨樹の撮影は早朝である。お日様の光が差し始め、あたりが明るくなった頃であろう。このスギの巨樹は陽を真



写真番号1 須佐之男神社のアヤスギ

正面から受けて直立していた。ここで気が付いた。

「二本の幹が重なりあいながら共に同じような大きさと成長したのではないか」。「人にたとえてみれば、まるで仲の良い夫婦のようだ。もっとよくよく見ると、子を抱いている。しかも二人は向き合い仲良く手を取り合っているようだ」想像が飛躍しすぎかな？いやいや、そんなことはない。確かに子供を抱いた母親に見える。

皆様、如何でございましょうか？？？

## 写真番号2 樹番号4 深谷<sup>やはいら</sup>八柱神社のスギ

樹齢不明、樹周5.5m、樹高40m 愛知県北設楽郡東栄町三輪字上深谷

写真で見る深谷神社は広い境内にコンクリートで固めた参道をもつ。このスギは社務所前にどっしりと聳え立つ。参道をよく見ると根が伸びている。根の伸びた部分を外して固めている。表現が適切でなくお判りいただけるかどうかだが、写真を見てくださいれば一目瞭然お判りいただけると存じます。

しめ縄を回し威厳を備えたこのスギは、周囲の緑を背景に厳かに鎮座ましましてしている。

一方、木材やの眼で用途的に見ればこのスギは超1級品である。このような素晴らしいスギはめったにお目にかかれない。30年前であれば、この無傷で直立した姿は、日本中の「銘木やさん」の垂涎<sup>すいゑん</sup>の的となっていたのではないかと推測する。

筆者はこのような素晴らしい巨木やご神木を見ると(写真だけでも)体が震えるほど感動する。神社の木が大切に保存されているのは、畏れ多く、無理に倒せば神罰が下るといわれているからか。そればかりではないだろう。神社にあったからこそ、自然に信仰の対象となり、信仰心が厚い日本人の国民性もあって大切にされて、このような素晴らしい木が残っているのではと推測する。日本人の精神は素晴らしいものだ。

## 写真番号3 樹番号13 杉本<sup>しょうかん</sup>の貞観スギ

樹齢伝承1000年以上、樹周11.8m、樹高45m 愛知県豊田市杉本町鳥井前10 国指定天然記念物

\* 豊田市教育委員会案内板より。

神明神社の入り口に聳え立つ、県下最大のスギの大木である。神明神社創建(貞観年間859~877)に、社頭に植えられたと伝承され、貞観スギと名付けられている。驚くべきは樹勢旺盛にしてまだまだ成長を続けていることだ。正に地域の象徴的存在である。

<筆者のつぶやき>

このシリーズを書き出してから持ち続けている疑問は、「この木は樹齢1000年と言われ今なお樹勢盛ん



写真番号2 深谷八柱神社のスギ

であり、成長を続けている」という樹が少なからずあることだ。この1000年が信じられなかった。しかしネットで調べると、樹齢の立木計測方法として以下のような方法が出てきたので、ご紹介する。

- ①幹の廻りの長さ（胸の高さで計測） $\div 3.14 \times$ 成長係数\*  
\*成長係数：成長係数は、成長するのが速い木、遅い木により設定されている。
- ②成長錐すいを使用して、幹の中心にねじ込み、サンプルを採取して年輪を数える。
- ③先端技術を駆使して、3次元画像解析する。

#### 写真番号4 樹番号17 やまぶしづか山伏塚の大スギ(ウラスギ)

樹齢不明、樹周8.6m、樹高28m 愛知県北設楽郡設楽町豊邦字森下

このスギは山の中にあるウラスギの巨木である。根元から複数の幹が分かれでていて、非常に迫力がある。

\*以下はネット情報より。

ウラスギは日本海側に自生するスギの変種である。雪の重みで枝が垂れ下がり、そこから根を下ろすひくじょう(伏条更新)という独自の繁殖をする。太平洋側に植生するオモテスギに比べて枝葉は密生し、枝にはとげがある。

#### <筆者のつぶやき>

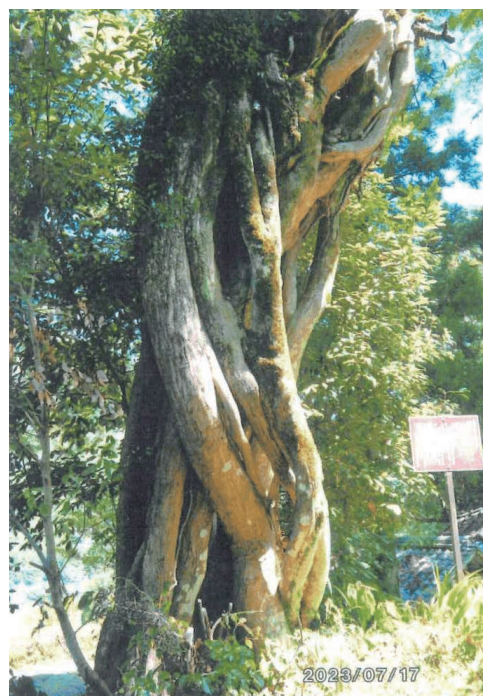
この巨木を見て筆者は大自然のもつ力の大きさ、深さ、偉大さに触れることができた。

巨樹の歴史は自然と人間の織り成す壮大なドラマだ。このスギの、大きな幹をよじる姿は、見る人、訪れる人が、あまりの迫力に打たれ声も出ず、一瞬息が詰まったかのようなショックを受けるかもしれない。

ところが、反対側はゴツゴツの荒々しさとは打って変わり、お地藏様を懐に抱いているような優しさを見せるので、実に不思議だ。写真でお見せできないのが残念だ。この木は、巨樹というよりご神木と表現したいほどのである。写真からだけでもこのような強烈な印象を受けた。めったに出会えないご神木ではないか！



写真番号3 杉本の貞観スギ



写真番号4 山伏塚の大スギ

## 写真番号5 樹番号25 夏山の大スギ(根上がりのスギ)

樹齢推定800年、樹周6.5m、樹高35m 愛知県岡崎市夏山町  
海道 国指定天然記念物、岡崎市指定天然記念物

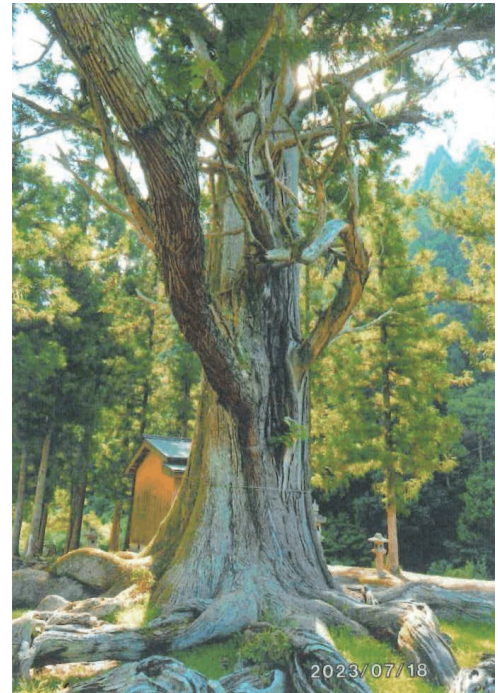
\*岡崎市観光サイトより。

夏山の大スギとは、夏山小学校(夏山町)の南、およそ500m  
の場所にあり、「目の神様」として信仰されている諏訪神社の  
境内に聳え立つ。

根が地表から大蛇のように浮き上がっている様子から、根  
上りのスギとも呼ばれている。

### <筆者のつぶやき>

なるほど根上がりとはよく言ったものだ。根の上った木  
はよく見かける現象だがこの写真のように、根が大きく成長  
し幹から伸びる枝が、下に伸びしかも絡み合いながら巨大な  
根を地表にうねらせているこのような大きな根はお目にか  
かったことがない。巨木のなかの変木?いや違うな?巨大な  
変珍木ではないか。筆者は「巨変珍木」と命名する。



写真番号5 夏山の大スギ

## 写真番号6 樹番号27 <sup>あいであら</sup>相寺白鳥神社のスギ

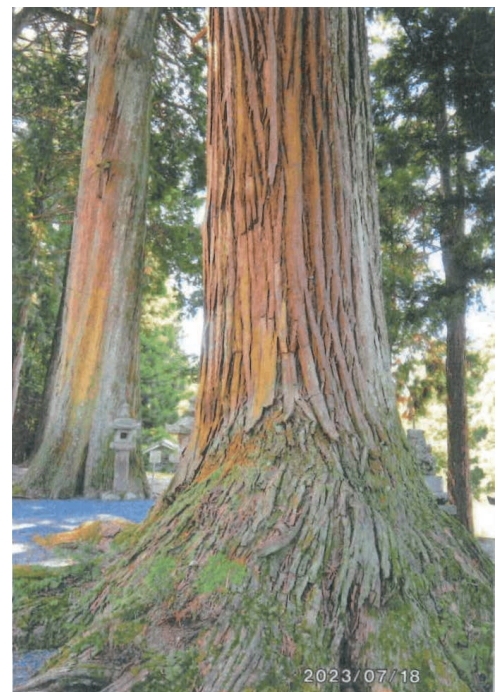
樹齢推定700~800年、樹周7.3m、樹高48m 愛知県新城市  
作手白鳥字宮下 新城市天然記念物

新城市の成沢の滝は豊川の支流の貝津川にかかる滝で、落  
差は15mほどだが、奥三河でも随一の水量を誇り、周辺の緑  
と相まって醸し出される幽玄な魅力が自慢の名瀑である。

また、この辺り新城市作手地区には日本武尊を祀った白鳥  
神社が11社もあるそうだ。<sup>やまとたけるのみこと</sup>

このスギは、正面は1mほどの根上がりがあるが、写真5  
の荒々しい「夏山のオオスギ」とは異なり、「スギとはこの木、  
と言わせる銘木」と筆者は評価した。高さ48メートルとは、都  
会のマンションの14階に相当する高さを誇っている。しかも  
直材であり、絞りが十分きいた皮膚はこの木の風格を醸し出  
している。さらに形の良い根上がり部分は力強く形よくどっ  
しりとした安定感を印象付けている。

写真2の「深谷八柱神社の銘木」に続く素晴らしい銘木と評  
価する。続く



写真番号6 相寺白鳥神社のスギ